

令和 7 年度第 1 回岐阜市立新大学準備委員会 議事概要

【日 時】 令和 7 年 7 月 28 日（月）10 時 00 分～12 時 00 分

【場 所】 岐阜市役所 10 階 10-1 会議室

【出 席 者】

（委 員） 杉山 誠委員長、廣田 孝昭副委員長、小野 悟委員、
河野 廉委員（オンライン・途中出席）、斎尾 直子委員、
中田 晃委員、大田 康雄委員

<欠席>

吉田 俊介委員

（オブザーバー）伊藤女子短期大学事務局長、若山企画部長、田中企画部大学
改革推進参与

（事務局）<企画部>

久富次長兼総合政策課長、小川総合政策課大学改革推進室主幹 他
<女子短期大学事務局>

藤田総務管理課長、大西総務管理課新大学設置準備室長 他

1 市長あいさつ

おはようございます。本日は第 1 回岐阜市立新大学準備委員会にご出席を賜り、大変ありがとうございます。委員の皆様方には、ご多用のところ市立新大学の開校に向けて委員のご就任、ご了解をいただき、こうして今日からの議論を進めていただきますことに重ねて御礼を申し上げます。

今、岐阜市立女子短期大学（岐女短）は、女子の短期大学ということで学生の募集に苦勞していますが、戦後一貫して女性の高等教育のため、先輩方に大変ご尽力いただいて今日までやってまいりました。

大きな時代の転換点でありますけれども、岐女短を男女共学の 4 年制大学にし、この地で引き続き人材育成を行っていこうということで、大きな一步を踏み出そうとしているところです。

今日は素案の確認ではありますが、基本計画を作るところはまだ入り口の話ですので、今後、実際に開校し、より私たちの地域で魅力ある学び舎を作りながら継続して多くの人材がこの地で育っていけるようにするため、学科のラインナップや学ぶ内容、先生方の募集など大変重要なテーマがあるので、ぜひ委員の皆様それぞれの知見を大いに生かして議論を導いていただければありがたいと思います。

元々の議論のスタートに、岐阜県内の学生が大学進学を通じてどうしても愛

知県を含め県外に流出するという、岐阜県の構造的な問題があります。かく言う私も、私の同級生も、ほとんどが県外に出ることを選択しています。ある意味で初めからその選択肢しかなかったため一旦県外に出て、私も含めて一定数は岐阜に帰ってきていますけれども、多くの同級生は他県、都市部で活躍したままです。

そのため、岐女短が公立大学としての役割を終えるのではなく、やはりこれからもこの地の若い世代の皆さんにしっかりと選んでいただき、岐阜市で学びたい、そしてふるさとに貢献したい、あるいはふるさとのことを思いながら活躍し何らかの形でまた関わり続けていただけるような若い人たちを育てていきたいと思いますので、ぜひともお力添えをお願い申し上げます。

2 委員長・副委員長選出

委員会規則に基づき、委員長に杉山委員、副委員長に廣田委員を選出。

3 議事

○杉山委員長

議長に選出されました杉山です。今日は皆様のご協力を得て進めていきたいと思ひます。

私は1年半ほど前に、岐阜市立女子短期大学将来構想検討委員会という前の委員会において、4年制化、共学化という答申を出させていただきました。最初は短大の機能も重要であるという話もありましたが、最後は社会や高校生のニーズを考えると4年制化、さらには建学の精神である良妻賢母といったものも時代性に鑑みてどうかということや、多様性という学びも重要ではないかということで共学化という答申を出しました。

その後、岐阜市の方でしっかりと基本計画を作ってください、かなり完成度の高いものができていて非常に嬉しく思っております。

本日の進め方ですが、次第の基本計画（素案）、これまでの経緯とスケジュールという3点を事務局から説明していただき、理解を深めたうえで次に進みたいと思ひます。説明の後、委員の皆様から説明に対するご意見やご質問を名簿順に受けたいと思ひます。そして理解が深まったところで、資料7、事務局の方でまとめた論点を中心に議論を進めるということでよいでしょうか。（異議なし）

恐縮ですが、そのような形で進めます。それでは最初に事務局から説明をお願いします。

◆事務局から資料に基づき説明

- ・岐阜市立新大学基本計画策定に係るこれまでの経緯について

- ・岐阜市立新大学基本計画（素案）について
- ・今後のスケジュールについて

○杉山委員長

詳細な説明を頂きました。あと 1 時間ですが、本日は非常にたくさんの議題があります。スケジュールをもう一度確認させていただくと、当委員会としては、次回 8 月 25 日に基本計画（素案）を（案）とし、パブリックコメントまで持っていくというのがミッションということです。従って、まずはこのスケジュール感で議論を進めてまいります。

それでは最初に申し上げたとおり、まずはこの基本計画以前の経緯、そして現状についてご質問があれば伺いたいと思います。最初に順番としましたので、小野委員からお願いします。

○小野委員

まず質問ということによいですか。

○杉山委員長

質問でも何でも、ご理解を深めるために頂きたいと思います。

○小野委員

論点についての意見というよりは、まずこれまでの経緯に限って質問等ということでしょうか。

○杉山委員長

現状や、これまでの経緯といったところでお願いします。特に高校からはいろいろあると思いますが。

○小野委員

丁寧な説明を頂き、とりあえず理解できたつもりですので、質問としては結構です。

○杉山委員長

よろしいですか。

河野委員はまだおいでにならないようですので、続いて斎尾委員お願いします。

○斎尾委員

質問といいますか、少し絞って申し上げると、市立大学が2大学になるということです、岐阜薬科大学と統合にならなかった経緯は何でしょうか。一つの公立大学にするということは、中ではいろいろあるかもしれませんが、外から見るとわかりやすいと言えればわかりやすいので、その辺りの経緯がもしお話しただければお願いします。

また、これまでの岐女短の在籍数は留学生や社会人学生を入れても定員割れなのかということが2点目です。

3点目は、いくつかキャンパスの立地の案があったかと思いますが、もっといろいろななかったのか、そこに絞られた経緯についてお願いします。

○杉山委員長

最後は基本計画のことかと思いますが、最初から1法人複数大学となっているが統合の話はどうであったかと、留学生や社会人についてはどうなっているかということですが、岐阜市から回答をお願いします。

○田中企画部大学改革推進参与

ありがとうございます。1点目については企画部からお答えします。ご指摘のとおり、岐阜市の大学として今は法人化した岐阜薬科大学（薬大）と、岐女短の2つを設置しています。中核市の規模で2つ大学を持つところはなかなかなく、非常に珍しいかと思います。

1大学化ではなく1法人2大学化で議論を進めてきた経緯ですが、薬大が薬学専門の大学ということで、分野的に新大学で目指そうとしているものとかかなり異なることもあり、また、薬大の名前で製薬や研究において高い評価を得てきているため、そうした歴史を大事にしたいということがあります。斎尾委員の大学はまさに大学統合されたところですので、今の説明でご理解いただきやすいかはわかりませんが、薬大の個性も生かしながら新大学を作っていくには、それぞれを別の大学としながら、法人を統合することで経営の効率化などを目指すのが最もよいあり方ではないかということで議論してきたという経緯です。

○伊藤事務局長

岐女短の方については私から説明いたします。ご質問は、社会人受験や留学生を受け入れる仕組みが元々あるかということかと思いますが、まず、社会人の方は一般の入試の中で社会人枠があり、そちらで入ってきた方が、先ほどの在籍者数の中に入っています。留学生は、外国人の受験制度はあるのですが、なかなか受験される方がいけませんので、基本的には毎年ゼロという形です。交換留学は

行っており、例えば中国から毎年 2～3 名の方が来られますが、その方は先ほどの数字には出てきません。基本的には受験者数の中での推移です。

○杉山委員長

ありがとうございます。留学生、特に国際化というのは非常に大きなことですので、新大学においても重要なことかと思えます。

それでは中田委員いかがでしょうか。

○中田委員

はい。基本計画のことについてはまた後でということですね。

○杉山委員長

はい、そうですね。

○中田委員

この将来構想がまとめられるまでの中で、こういう方向にしていったらよいという前向きなご意見やそれに向けた関係者のたくさんの努力があったかと思うのですが、新大学を作ることは前提になっており、もう決断されたということでしょうか。

○田中企画部大学改革推進参与

これまでの将来構想などの段階では、岐女短をどうしていくかということから議論を発していましたので、短大としてどのように振興を図っていくかや、4 年制化、それから明示的にそのような議論をしたかは別として廃止ということも観念上はありうるわけですが、そうしたあらゆる選択肢を議論したという状況です。

岐阜市としては、その中で共学 4 年制への移行が最もよい選択肢ではないかということで今日に至っています。政策として正式に決定したという段階にまでは至っていませんが、共学 4 年制が望ましいという方向性は、市としてかなり強く持っている状況です。

○中田委員

後で基本計画のところで質問したいと思いますが、例えば、新キャンパス整備にいくらかかるかなどを勘案しないで、こちらの方がよいと言って進めるわけではないと思います。学部や運営体制といった一つ一つのエレメントについてはどちらがよいというのがありますが、それをぐっと合わせて本当に新大学を

作ることを決断するということを、市として政策の中にどのようにきちんと位置付けていくかが見えないといけません。どうしたらよいという知恵を集めることはいくらでもできますし、ここにいらっしゃる先生方は本当にたくさんの知見をお持ちなので、それぞれの立場から大変参考になることを言うてくださると思います。それを一体どうまとめて政策として実施していくのかということについて、その話はもう終わっているのであればなるべくサジェスションをしていけばよいと思いますし、そうでなければ、どう考えていくのか伺いたいです。

なにせ、今のところ開学が8年後となっていますが、率直に申し上げると8年後は、その翌々年くらいから18歳人口が崖から落ちるように減少する時期を迎えます。その辺りは、初等中等教育の方で先んじて動くところがあるかと思いますが、その状況に対して本当に進むのかという議論がもう済んでいるのであればよいとして、済んでいないのであればそういう話をしなければいけないと思います。

しかし、この検討スケジュールを見るとそういう話でもないように思われるので、このように議論してほしいという指示がいただければ、それに即した意見を申し上げることもできるかと思います。

○杉山委員長

貴重なご意見ありがとうございました。私としては、この準備委員会があるということでもう賽は投げられたというか、走り始めているものと理解しています。よろしいでしょうか。

それでは、廣田委員お願いします。

○廣田委員

岐阜商工会議所の副会頭という立場で委員会に参加させていただきます。廣田と申します。よろしくお願いします。

商工会議所の立場から申し上げますと、商工会議所はご承知のとおり中小企業の活性化が一丁目一番地になるわけですが、今2番目に必要なのは、岐阜市の活性化、そしてまちづくりというところなんですね。そこが商工会議所として非常に重要なポイントになってきているのは皆さんもご存じのところではないかと思います。その中で、岐阜市、岐女短のこれからの方向性が、岐阜市の活性化とまちづくりに結びついてくれれば、我々としては本当にありがたいと思いますし、それが新しい大学の入学生募集や価値観にも繋がるのではないかと思います。

そのために聞きしたいのですが、なぜ薬大との統合ができなかったのか、ま

た、しないということが決定事項なのか。薬学部を揃えることの価値は本当にあると思いますし、逆に言えば、統合しないのは不思議で仕方ない。一つにした方がいろいろな意味で効率化できますし、薬学部にして、行きたいという人があれば完全な付加価値になると思います。

また、今の場所とまち、中心地とを比べれば、当然、中心地の方が人を集めやすく、価値観も出てきます。私はアパレルの会社を経営していきまして、岐阜短には昔からデザインの学科があり、我々もお世話になっているわけですが、勝手なことを言えば、やはりまちと郊外とでは情報力が全く違います。私どもも社員に対してとにかく現場に行くように言っており、極端に言えば、本当にセンスのいい素敵な人がたくさん歩いているから、恵比寿や青山ですずっと立って見ていなさいと、そこに情報があるんだということをよく言っています。まちの中心地に出てくるということは、完璧ではないとは思いますが、ある意味でそれと同じことが言えるのではないのでしょうか。もちろん岐阜と名古屋とを比べると違いますし、名古屋と東京を比べてもはっきり言って違います。しかし、少なくとも今の場所から出ることをもう決めているのであれば本当によいことだと思いますし、そうになっていただければよいと思います。もちろん、4年制で男女共学化ということもそれに付随してくることかと思っています。

それと、これは極端な話になるのかもしれませんが、市岐商（市立岐阜商業高校）との連携について、先ほどから申し上げている新しい大学の付加価値という点で、単純に市岐商と連携するだけで本当に付加価値になるのだろうかと思います。それがあから新しい大学に入りたいとなるのでしょうか。このようなことを言うと市岐商には非常に申し訳ないかもしれませんが。

私も東京に住んでいきまして、中学校のときは岐阜にいましたが高校から東京の方に参りまして、例えば、附属校にするとかそれを含めて…

○杉山委員長

基本計画まで入り込んでいますので、すみません。

○廣田委員

すみません、それを提案として申し上げたいと思っています。

○杉山委員長

ちょっと時間の制約があるため、基本計画の方まで入りましたので、また後で議論していただきたいと思います。どうもありがとうございます。

それでは大田学長、お願いします。

○大田委員

私はプランの中はかなり入りこんでやっていますので質問はありませんが、先ほどからいろいろなご意見がある中で、そもそもどうなのか、本当に必要なのかといった視点でのご意見を賜るとブラッシュアップできるかと思いますので、どうぞよろしくお願いします。

○杉山委員長

ありがとうございました。大田学長はこの4月から学長になられ、それまでは産業界にずっといらっしゃった方なので、また違った観点からご意見をいただけるかと思います。ありがとうございます。

河野委員は入られたかと思いますが、聞こえていますか。

○河野委員

はい、ありがとうございます。参加が遅くなりすみません、名古屋大学の河野です。よろしくお願いします。

○杉山委員長

今、これまでの経緯や現状について理解いただくということでご質問を受けています。先生は説明を受けられていませんが、事前に資料が行っているかと思っていますので、もしお尋ねになりたいことがあれば伺いたいと思いますが、いかがですか。

○河野委員

では一つだけ。いろいろな方のご意見もあるかと思いますが、もしご説明の中にあつたらすみません、繰り返しになってしまうかもしれませんが。

今回の新しい大学の対象はもちろん高校生ですけれども、県内の高校生なのか東海圏の高校生を集めて岐阜に持ってこようとしているのか、それとも国内なのか世界なのか、という対象がこの説明の中では少しわからないように思いました。もちろん、地域のためにという文句は出ていたんですが、私が普段アントレプレナーシップ教育をやっていて学生と話をする際、スタートアップや新たな事業をやっていくときにどういう方を対象にどういう商売をするのか、どういう価値を提供するのかという話をします。そのとき、対象というところが一番大事なんですね。

地元の高校生ということではなく、地元のどういう子どもたちに来てほしいかをちゃんと明確にされたのかお聞きしたいです。よろしくお願いします。

○杉山委員長

事務局の方から、どうですか。

○伊藤事務局長

岐女短からお答えします。対象といいますか、どのエリアかということかと思いますが、現在の岐女短は、岐阜県及び愛知県から入ってくる学生が大体 6、7 割、さらに中部 9 県ではほぼ 9 割です。そのため、現在イメージしているのは、流出を防ぎつつ選択肢を提供するという意味ではもちろん県内の高校生、まず岐阜県が第一ということになります。

しかしそれだけではなく、岐阜県の周りの県との交流や人口の状況などがいろいろとありますので、東海 3 県からさらに中部圏というところで、岐阜県を優先としながら少し広げていくことを考えています。

○河野委員

ありがとうございます。

○杉山委員長

私の理解では、8 割の高校生が岐阜から出て行ってしまう背景の一つは、やはり社会科学系や人文科学系の 4 年制大学がないということですね。そのため、ここにそれを作りたいということがあります。

もう一つは、こちらの方に流れてくる学生も岐阜の活性化のために必要であるということで、二つターゲットがあると捉えています。

○河野委員

ありがとうございます、今のご説明はとてもわかりやすいと思いました。

ではそうしたときに、8 割の方がなぜ岐阜県から名古屋またはそれ以外の地域に流れていくのか。もちろん学部がないことも一つかとは思いますが、学部はできたとして選択できるのか。これにはおそらく偏差値や様々な問題があるかと思いますが。

ほかにも、例として正しいかはわかりませんが、例えば近畿大学では、最近アントレプレナーシップ教育ではなくて起業といったテーマで人を集めています。秋田なども…すみません、多分こうした様々なことを検討してここに持ってこられているとは思いますが。例えば近大を例にとると、「近大といえば起業」というようなキャッチフレーズを出しています。

岐阜県の高中生や外部の人から「岐阜って面白そうだね」と言われるような、キャッチフレーズではないですが、岐阜としてこんなことをやる、これから新し

いことをやるというメッセージをしっかりと出していないといけないと思います。今までと同じように偏差値で選ばれる大学になるのではなく、ここに来たらこんな面白いことができるという大学にしてほしいと思います。

○杉山委員長

ありがとうございます、とても貴重なご指摘かと思いますが、基本計画に入っているかと思うので、またそのときにご意見をいただきたいと思います。

それでは、少し時間が押していますが、基本計画のところで論点を 5 ついただいています。単純に割り算すると 10 分もないくらいですが、効率的に進めてまいりたいと思います。

まず、「新大学の全体像」について、資料だと 3 ページから 6 ページぐらいになりますが、社会のニーズ、高校生からのニーズ、公立大学としてどうしていくのかといったことについて、ご質問やご意見はありますでしょうか。あるいは、この資料について何かありましたらお願いします。

○廣田委員

よろしいですか。

○杉山委員長

廣田委員、よろしくお願いします。

○廣田委員

どこまでこの基本計画が決まっているのか、前提条件があるのかどうかを明確に教えていただきたいと思います。構想として、4 年制化や男女共学化、立地などいろいろあるかと思いますが、それがどこまでどう決まっているのか、それを前提に話を進めていった方がよいのか、基本計画から根本的に変えることができるかということも教えていただきたいと思います。

○杉山委員長

私の理解では、議会で市長が実施を明言されていること、また準備委員会もできていること、しかも基本計画（素案）を見ますとかなり完成度が高いものができていますので、そこはかなりやることになっていると捉えています。そこをおっしゃると困るのですが、いかがでしょうか。

○廣田委員

やるということはわかりますが、その中身について、例えば、先ほど申し上げ

た薬大と統合することについてはどうでしょうか。

○杉山委員長

今、岐女短をどうするかをまず考えているところですので、薬大とは歴史的に全く違う中、統合については議論していません。今、そこを議論するのは非常に難しいと私は思います。まずは岐女短をどうするかが一番大きな課題で、短大、女子大、その結果として定員割れという、税金を遣う大学としてどうかという心配がある中で 4 年制化の議論になっていますので、まずはそちらを片付けないと次のステップに進めないというのが私の理解ですが、違いますでしょうか。

○廣田委員

ただ、そこだけを論じていてもなかなかよい案が生まれないような気がするのですが。

○杉山委員長

薬大を巻き込んで議論するとなると、まず岐女短がしっかりしないと議論にならないように思います。薬大は薬大で 4 月に法人化し、きちんとした薬学教育をやっています。そういう意味では、こちらは母屋が崩れている状態ですから、こちらがしっかりしたうえで双方が話し合うようにしないといけない。薬大と話し合うにはこちらの土俵ができていないというのが私の理解です。いかがでしょうか、よろしいでしょうか。

○中田委員

ちょっとよろしいですか。おそらく廣田委員は、大きな戦略を決める際、様々な可能性がある中で、本当にこれがいいという決断を一体どこでしていくのか、そのためにどれだけ議論を尽くしたかという大きな視点でおっしゃっているのだと思います。

確かに、薬大と一緒になるということは現実問題を、現場を見るとそれはちょっととなるのですが、一緒にするかは別にしても、社会共創学部やデザイン情報科学部というものは一つの無難な選択ではあると思うのですが、それでこの厳しい時勢をやっていけるのだろうかとは思いますが。それよりも、先ほどデザインについておっしゃいましたが、これだと思ったところ、やはりこれで行くしかないというもの、何か直観も含めてそれで行くといったものを掴んでそこに向かって牽引していくような、新しい大学を背負っていく次世代の当事者がそういう大学を作りたいと言って邁進していけるような、そうした議論の進め方になっているかということは私も廣田委員と同じ問題意識を感じるところです。

先ほどの繰り返しになりますが、様々な要素を検討しながらこういう感じがよいとかこういう運営体制でよいといった、いい感じのことを全部足し合わせたら本当に良い大学ができるのかということがこの議論の難しさだと思います。ですから、「新大学の全体像」がこれでよいかと聞かれると、まあいい感じですよ、それは全体のバランスをとっていけば、ということにはなるのですが、中身よりもどのように定めていくかという決め方の方が案外重要ではないかと思っています。

○杉山委員長

ありがとうございます。小野委員よろしくお願いします。

○小野委員

最初に資料を拝見したときに一番思ったことは、素案の概要の中にもスペシャリスト人材や専門性という言葉がありますが、正直なところ、何の専門性を身に付けるかが見えてこないということです。高校生は、先行き不透明な時代だからこそ、私たちが思っている以上に、将来に向けて自分の専門というものに非常にこだわる傾向があります。

その点で言うと、私が一番心配しているのは、社会共創学部もデザイン情報科学部も仮称ですがすごくもやっとしていて、一番高校生が選ばない名前になっています。経営起業やデータサイエンスは今本当に必要なものでそれはよいのですが、それをもってどんな専門性を身につけていくのかということを明確に出していかないと、岐阜県に社会科学系の学部がないからといって子どもたちが残ってくれるかという、そんなに甘いものではないように思います。

先ほど廣田委員も言われましたが、薬大についてはいろいろなことがあるのでしょうけれど、どこにも何も書かれていないのは恣意的すぎるように思います。例えば「将来の統合も踏まえ」など、せめてそのような箇所がないと、同じ市立大学でありながら全く書かれていないということでは多分市民の理解は得られません。ですから、将来に向けてまずはというようなステップでもよいので、書いておかないといけないかと思っています。

やはり高校側から一番思うのは、どういう専門性を身に着ける学部なのかというところがちょっと曖昧で、もやっとしていてということです。これは言い方も悪いのですが、その辺りをもう少しきちんと突き詰めていかないと子どもたちが選んでくれないのではないかというのが高校側からの意見です。

○杉山委員長

ありがとうございます。かなり厳しい意見を頂いておりますが、薬大について

はやはり今すぐにとというのは難しいのではないかと思います。先ほどの 1 法人複数大学の中でどうするかという話も、なかなかオーソライズに苦勞されているのではないかと思います。確かに将来的な話という観点ではありますが、難しいことだと考えています。

専門性の話は、例えば 3 ページを見ると「2 年制短大から 4 年制大学への高度化」について「アントレプレナーシップなど全学共通教育の充実」としか書かれていないので、専門性の高度化について確かにあまり触れられていないように思いました。ですので、やはり専門性をどうするか、そのときに社会共創学部という名前がよいのかということは少し考えなければいけないと実は私も思っています。

大田委員からもし何かあれば。

○大田委員

非常に貴重なご意見をありがとうございます。まさに、新しい大学が選ばれる理由というものが重要だと思います。いかに魅力ある部分を作るかということが肝ですし、それがなかなかうまく出せないのでは苦勞しているのだと思います。

ただ本日、決定プロセスを透明にし、こういう理由でこの大学の特徴をこのように押し出していくということについて議論を避けてしっかりと追い込んでいくことが大事であると感じました。あまり明確に「これだ」としてしまうと範囲が非常に狭くなってしまうので、この辺りについて、いろいろお知恵をお借りできればと思います。

○杉山委員長

そもそも論的な話もありますが、最初からやろうとするととてもではないができない、という面も実際にはあるかと思います。

河野委員、ご意見ありますか。

○河野委員

ありがとうございます。社会共創学部の名前がぼやっとしているということについては私も同じような意見をもっています。先ほどから申し上げている、アントレプレナーシップ教育か起業教育か、一体どちらなのかということが学生も関心があるところだと思います。今、中高生はアントレプレナーシップ教育を結構受けており、起業しない場合はそのマインドや法則について学んできている、というよりも実施している中学校、高校も増えてきているので、その次に何を学べるのかということは学生もすごく関心があるのではないかと思います。

今お話があったデータサイエンスや、ロボット工学や起業というような特徴を出すことはとても重要だと思います。

では、起業教育をやるとした場合に、学部はよいのですが、センターや支援組織を見ると、産官学の連携組織と言いますか共同研究をやるセンターがあると書かれていました。では、起業を支援する組織はそこに入っているのでしょうか。元々は地域ともっと連携するという話だったかと思いますが、地域と結びつくような教育を行うセンターがこの中にあるのでしょうか。キャリアセンターがちょっと見当たりませんでした。もしかしたらあるのかもしれませんが、就職に強い、地域企業への就職をこのようにやっていくというメッセージを出すような支援センターがここにはないので、そうしたここに強みがあるというメッセージをしっかりと出すことが選択に繋がるのではないかと思います。

○杉山委員長

ありがとうございます。仕組みとしてどうするかという話もあるかと思います。素案の中に多少書かれているかと思いますが、具体的にどこまで書かれているかというところはまだかだと思います。

斎尾委員いかがでしょうか。

○斎尾委員

主に論点の4、5で見ていきたいと思いますが、まず、委員の皆さんの意見を聞いていると短期的な話と長期的な話があり、短期的な決定事項というのは、例えば今の高校生のニーズや保護者のニーズ、市民のニーズや現状といった、10年以内にはこれが受けるという話のことだと思います。それを固めることによって、スタート時はその当時としては大丈夫となります。

しかし、大学を始めて10年ですぐ変えるというわけにはいきませんし、特に施設整備、空間整備をすると躯体が50年、100年もつこととなります。そこをどのように使っていくのか、まちとどのように関係するのかというご意見がありました。そこは長期的に考えていかないとはいけません。短期的にはこのようにやっていく、長期的にはこういうことも構想しているというような書き方ができないかと思います。

○杉山委員長

ありがとうございます。まさに長期的と短期的というのは重要な視点だと思います。今の計画は中長期的というか、短期的になるような考え方かと思います。100年というわけにはいきませんし、100年先がどうなるかは全く分からない時代ですが、そこは考え方としてあるのだと思います。この計画案は短期とはいえ、

10 年くらいかかることかと思います。

○斎尾委員

ただ、長期的なことをきちんと考えて、短期的には、10 年以内にはこうだというやり方をしておかないといけません。今は、長期的には大丈夫かと皆が思うような計画になっているのではないかと思います。

○杉山委員長

ありがとうございます。そのような意味では、少し長期的な視点がないということは否めませんね。おそらく必要かと思います。そうしたところが今、委員の皆さんから出てきており、それをまとめていただいたように思います。

もう少し、長期的にどうか、あるいはこの大学の魅力をもう少しきちんと捉えたうえでどのように具体化するかを作ることが必要だというご意見かと思います。

各論点に従って進めようと思いましたが、いろいろと複合的に絡んだ話が出てきています。そうしますと、高校生のニーズについても、時代がこの後どう変わるかという話の中で、魅力と教育研究、特色などと全部つながってくる話かと思います。教育と研究の特色というのは、今の話からすると非常に重要な点かと思います。6 ページ、7 ページ辺りに書かれていますので、論点 2 を中心に議論を進めていきたいと思います。

今、いくつかご意見を頂きましたが、それについて何かご意見はあるでしょうか。

○斎尾委員

論点 2 ですが、今、情報サイエンス系の学部は、全国の数多くの大学で再編して作っているところだと思います。今日は情報サイエンス系の先生はいらっしゃいますか。(注：本日は欠席)

その先生を差し置いて私が言うのも申し訳ないのですが、情報サイエンス系には、情報サイエンスの新しいモデルや方法を提案する研究部分を含むものと、情報サイエンスを手段として使うものがあるかと思います。研究系は名古屋大学や岐阜大学などのレベルでやるとして、この市立大学の場合は手段として使うことが多いのではないかと考えたとき、10 年後にデータサイエンス系が一番人気のある学部だとは限りません。10 年はよいと思います。今の高校生はデータサイエンス系に行くかもしれませんが、20 年、30 年後を考えたとき、学部の名前をいきなり情報サイエンス系にするのではなく、学部の中で今できることをはっきりしておく程度にしてはどうかと思います。そのように考えるので、世

の中の学部の名前がもやもやとしてくるということもあるかとは思いますが、そのように感じました。

○杉山委員長

ありがとうございました。なかなかこれは難しい話だろうとは思いますが、データサイエンスはこの後もっと進んでいくだろうという前提があるかと思いますが、その中で、岐女短がこれまで培ってきたデザインや服飾などをベースとして建築などにどう生かしていくかということは、また考えていかなければいけないと思います。伝統というものが良いか悪いかはありますが、ただ、やはりベースにあるということは大きいと思いますので、その中で考えていくという理解だと思います。学部の名前がよいかという話はありませんが。

いかがでしょうか。小野委員お願いします。

○小野委員

まさに今、データサイエンスというものがたくさんの大学で改編されていますが、見てみると中身はバラバラなんですよね。ですから、先ほど私もお話ししたのですが、その軸をどこに持ってくるか。デザインならデザインとして、本当にそれがいいのかとは思いますが、それが一つあります。

もう一つは、社会共創学部の方について、私からすると岐阜大学の社会システム経営学環にととても似ているように見えてしまいます。少なくとも高校側から見ると、違いがあまり見えないように思います。社会システム経営学環も、キャンパス内にフィールドを持ちながらいろいろとやってみえますが、なかなか高校生には今でも届いていません。もう少し届くとよいと思いつつ、それと近いように見えてしまうので、同じ県内にある大学として違いを明確にしなければならないということはずごく思います。

○杉山委員長

ありがとうございます。社会システム経営学環は開設から今年で 5 年目くらいになりますが、定員 30 人のため、なかなかそれで全部をカバーできるというわけではありませんので、違いがなければいけないのか、同じようなものでもよいのかという議論はあるかと思っています。

情報系に関しては、文科省がこれを今推進しているため、ほとんど全ての大学が新しく情報系を充実させようとしており、はっきり申し上げると先生の奪い合いになっているのが全国の状況ですので、なかなかそれぞれが違う絵を描けないのが現実かと思っています。日本がとにかく情報系が弱い中、その喫緊の策としてということですので、それが今後どのように変わっていくかは推移を見守らな

いとわからない状況かと思います。

他に何かご意見はありますでしょうか。

特徴という観点では、「グローバル化」と言いつつどのようにグローバル化するのかが見えないと実は思っています。先ほど留学生に関する質問がありましたが、まさにそこだろうと思います。元々岐女短には英文科や国際コミュニケーションコースがあつてということはわかりますが、言葉の問題は基本ではありますが、翻訳機能などいろいろなものが出てくる中で、本当に重要なのはどうやって多様な価値観や国際的なセンスを磨くのかということです。

そのためには、やはり外国の方と接したり留学したりといった機会が非常に重要になると思います。その部分があまりこの基本計画の中にはないように思いましたが、いかがでしょうか。

○伊藤事務局長

ご意見ありがとうございます。今あまり細かくは書いていませんが、資料の 12 ページの全学教育・リカレントセンターの中に「国際交流の窓口」とあります。まだ実施内容は書いていませんが、この機関で対応していくことを考えています。

○杉山委員長

留学生や外国人と接する機会は、相当積極的にやらなければ作れません。窓口があるだけでは多分できないだろうと思います。留学生がいるのは岐阜大学なので、そうしたところとどのように連携していくかが非常に大事になります。他大学との連携ということは書いてありますが、何を連携するのかをもう少し詰めていかないといけないかと思います。

どうしても各論的な話になるので、なかなか中田委員の話がお伺いできませんが、お願いします。

○中田委員

あくまでも一般論であり、岐阜のことではないということで聞いていただきたいのですが、とかく高等教育政策では大学をどう減らすかという議論をしています。先ほど申し上げましたが、今 18 歳人口は 110 万人ですが、今から 10 年かけて 10 万人減ります。次に、3 年かけて 10 万人減ります。次は、2 年で 10 万人。また 2 年で 10 万人。これで 40 万人も減ったことになります。これにどう対応するかで大騒ぎになっているときに、新しい大学を作ろうということですから、それはよほどの何かがないとできないと思ったほうがよいと思います。

今、文科省では国立大学の定員どう減らすかという議論をしています。方法論

もかなり出てきています。私学は、市場の淘汰ということもあるので経営努力したところだけ支援し、公立は地方でやっているため無下なことは言えませんので、やんわりと「よく考えてくださいね」くらいのことをよく言っています。国立が減り私学が撤退したときに、その地域でその分野にアクセスできなくなるので、そこくらいは公立でやっていただけるでしょうという感じです。

ですから、これはあくまでも本当に一般論なんですけど、ここに岐阜県内大学の学部学科設置状況の表がありますが、8年後にはどこがなくなってどこが撤退しているのということを見ながら、できるかどうかは別として、では新大学はどうするのかを考えなければならないということです。時代的な状況や要請はそうなっているので、先ほどおっしゃったように今ここで現時点ではこれがよいと考えていても、3年後に作るのならまだしも、8年後に作るという議論を行うことや、学部の方向性を軽々しく決めてよいのかということはずごく心配になります。

それではどうするかという話ですが、やはり、現在の岐女短の中で具体的に自分たちがどうしていくという議論があるのか、岐阜市の方で、岐女短がしっかり頑張っしてほしいということはあるけれど、大学というものは大事だから市の政策でこうしたいというところに岐女短の4年制化を組み合わせさせてやっていくという議論があるのか、ということです。それは市主導でやるパターンもあれば、大学がまず自ら考える方法や、市が政策としてしっかり考えていくというやり方もあるのだらうと思います。

建物の話もとても大事で、詳しくは知らないのですが岐阜市の駅を出た正面に繊維関係のビルがありますよね。既に考えられているとは思いますが、例えば、そのような中心の市街地ではどうかといった観点でキャンパスについて考える必要があります。おそらくこれまでのような、大学がもっと必要で、様々な新しい学部を設置すればよいという時代であればここに書かれているような論点でよかったと思います。しかし、これは大学がもっと必要な時代の論点であって、今はもう論点が異なるのかもしれない。

しかし、今、大学が必要ないと言われているときに敢えて大学を作るということは逆にチャンスかもしれないので、それを市が政策を実現するためのチャンスにどうやって変えていくのかという観点や、短大として積み重ねてきた貴重な資源をどう生かすのかという観点で、本当に絞り切ったポイントで考えていく体制をつくるべきではないかと思います。

ここで先生方との議論を集めて結論が出てくるということであれば、私はおかしいことをずっと言っているわけですが、そこはどうして行くのでしょうか。そこは別に考えているということであれば、なるほどという話でよいと思いますが。すみません、長くなって申し訳ありません。

○杉山委員長

ありがとうございます。非常に重要なお話だと思いますが、この辺りは将来構想検討委員会でだいぶ議論しています。まず一般論は、まさに先生がおっしゃったとおりなのですが、では岐阜がどうかと考えたときに、岐阜大学があり、私立大学があり、今はその中間の学力層の人が行く受け皿がないため、その人たちが皆愛知県や名古屋に行ってしまう帰ってこないという絵がある。そのため、やはりその意味での受け皿が必要ではないかという議論が、当時がありました。

このまちをどうしていくかという中で、大学をということで、地域経営やこれまでの歴史的なものも生かしていくことが議論の中で出て、これが動いているという状況です。

ですので、全国的な一般論ではそうなのですが、子どもが減ってしまうのは全部が減るわけではなく、そこにはニーズの違いもあるため、その受け皿が岐阜にあるかということでこの議論が進んでいると思います。なぜ共学 4 年制化が必要かという議題でその議論が結構強かったように記憶しています。

まちづくりという話が出てきていますが、斎尾委員いかがでしょうか。

○斎尾委員

時間がなさそうなので論点 4、5 に対して固めて申し上げます。

論点 4、5 で、キャンパスをどうするのか、まち・地域をどうするのかというところがあったと思いますが、まさにそこが構想のところではあまり話されていなかったように思いますので、少し意見を述べさせていただきます。

これまで、20 世紀までと言ってもいいのかもしれませんが、キャンパスというものは敷地があってそこに作るものでした。しかし、だんだん変わってきています。ですので、まちの中に点々とあってもいいわけです。学科ごとや活動ごとに融合していてもよい時代だと思います。

それを踏まえると、どこの敷地にするかという発想をまず外すことも考えられます。そのときに、せっかく県立大学ではなく市立大学なので、市の地域計画整備や都市再生整備などと絡めてやるとよいのではないかと思うんですね。例えば、商店街がこれからも大丈夫なのか、様々なところが疲弊して困っているといったことや、駅周りなどの敷地をどうしようかなど、いろいろなことがあると思います。

例えば、トリノ市のトリノ工科大学では、鉄道操車場が空いたのでそこをリノベーションして学部を入れる、工場跡地ができたならまたリノベーションして入れる、歴史的な建造物である 17 世紀の城があるのでそこに建築学部を入れるなど、学問分野の内容と合わせてリノベーションして入れるということをしてい

ます。結局は市の都心エリアだけで、ぽつぽつと点在する形になるのですが、時にはどこかのホールや図書館で講義をすることもあり得るかもしれませんし、街の中全部をキャンパスにするという発想でもよいような気がします。「これを建てると何十億かかる」ではない話もあるように思います。

そうすると、市の中でいろいろな部署と連携しなければならなくなるのですが、幸い企画部でやっているとしたら、連携もしやすいのではないのでしょうか。そこまでやると、市民の応援も得られるのではないかと思いました。

○廣田委員

市の中にたくさん空いているので、そのまま活用したいんですよ。

○斎尾委員

はい。もう一つだけ、徒歩圏や電車通学の人たちばかりを狙っているわけではないと思うので、学生寮も必要になってくるように思います。それを、空いているアパートをリノベーションして作るのか、あるいはまちの中に散らばらせていくのかという観点もあります。

新しい市立大学がまちと一緒に再生できるというところまで構想すれば、おそらく市民の様々な意見も得られますし、いろいろな部署と関係せざるを得ませんので、市を挙げてやるということになるのではないかと思います。ただ、少し時間がかかるかもしれませんが。

○杉山委員長

ありがとうございます。都市全体をキャンパスにという構想までは書いてありますが、まだ具体的になっていないので具体化していかなければならないと思います。また、空き家に学生を住ませるという取組は山形市や揖斐川町でやっています。名古屋から通う学生はおそらく名古屋に帰ってしまうので、岐阜にどう住ませるかが非常に重要になってきます。

そうしたことを総合的にやっていかないと、まちの活性化にはならないように思います。ただ、若者が常にまちの中にいることはそれなりに大きな事であろうと思います。毎年いることになるわけですし、しかも、普通は岐阜から名古屋、愛知県へ流れていきますが、それとは逆の流れができますので、そうした意味はあるかと思います。

ですので、子どもが減っていく絵は当然ありながらも、その中で、どれだけ話題に上り続けるようなインパクトがあるものを作れるかということが重要なポイントになってきます。

私の仕切りが悪くて時間がなくなりかけつつあるんですが、ぜひここはとい

うことがあればお願いします。小野委員よろしくお願いします。

○小野委員

論点 3 の高大連携に市岐商との連携が書いてありますが、先ほど中田委員からもあったように、本当に子どもの数が減ってくるとき、おそらく岐阜県でも今ある高校の数は相当減らさなければならなくなります。そのときに、市岐商だけは聖域のように見える書き方になっている気がしました。

例えば、岐阜地区には県立高校を含めて商業を学べる学校はたくさんありますが、実際に専門科から就職している学生は2割しかいません。そうすると、岐阜市が市として市岐商をもたなければならないかについても議論があるかと思うと、ここに市岐商とは書かない方がよいと思います。

正直な話、他の高校からすると市岐商とくっつけていることがネガティブなイメージになってしまうように思います。岐阜市が市岐商を大事にしたいという思いはわかりますが、子どもが来るときに果たして市岐商が必要なのか。そこまでは言いすぎかもしれませんが、他の県立高校も含め、市岐商の今後についても考えていかなければならない時期にあるとするならば、ここには書かない方がよいのではないかと思います。

○杉山委員長

ありがとうございます。先ほどの薬大と同様かもしれません。やはりここは岐女短をどうするかにはフォーカスを絞った方がやりやすいように思います。

○小野委員

素案に書いてあるので、市岐商のことを書かなければよいという意見です。素案はパブコメにも出すわけですね。

○杉山委員長

この後、このままパブコメに出すかを決めることになります。

○小野委員

それであれば、そこには書かない方がよいということです。

○杉山委員長

そういうことですね。わかりました。

河野委員、何かご意見はありますか。

○河野委員

ありがとうございます。今の高大連携もそうですが、リカレント教育のような形で一般の方々も対象に含めた勉強の場というような形にしていくことも考えられるかと思った次第です。

次の論点 4 に地域連携についてあったかと思います。どんな形にするかということは各論に入ってしまうのですが、対象の学生と地域の方々とが一緒に何か新しい事業を考えていくこともできるかと思います。そうした場のプロトタイプを作るにあたり、キャンパス内だけに留まるのではなく商店街等も活用するなど、先ほど斎尾先生のお話にもあった、市全体でキャンパスを作っていくことの仕掛けについても考えていくとよいと思いました。高校生だけではなく市民も学ぶ場として、海外で言うコミュニティカレッジのような感じかと思います。

すみません、最初から同じことを言っているんですけども、大学の価値をどこに置くのを最初に決めておくことが大事だと思いました。

○杉山委員長

ありがとうございます。リカレントについては 15 ページに少し書かれています。おそらくコミュニティカレッジというのが大きく描いている像だろうと思います。

○河野委員

承知しました。一般的な教養だけではなく、この大学らしいところを推し進めるのもよいのではないかと思ったところです。

○杉山委員長

ありがとうございました。

それでは時間となりました。皆さんからかなりいろいろなご意見を頂いたので、この後、事務局に意見を送っていただき、もう一度まとめる必要があるのではないかと思います。事務局はいかがでしょうか。

○田中企画部大学改革推進参与

ありがとうございます。本当にいろいろな側面からのご意見を頂いていると思っています。私も、杉山先生に答申を頂いてから将来構想をまとめていく中で議論の中にもあり、岐女短を巻き込んでのことでもあります。岐阜市の政策として 4 年制の新大学を作るべきかという議論をこの 1 年やっています。その中には経済関係や、まちづくりなどの部局も入り、市が一体としてやってい

る状況です。

ですので、新大学を作ることが岐阜市、あるいは地域の教育にとってどうか、高等教育へのアクセスの確保にとってどうかということはもちろん、まちづくりにとって、そして地域の研究活動の拠点としてどうかということも含めて、新大学の計画を作っていかなければならないと思っています。

しばらく行政の中で議論してきたため、その結果として、中田委員もおっしゃったように無難なものにまとまっていると見られるきらいがありますので、もっと地域から求められているものや、市民に理解を得られるものについてより考えを深めなければいけないということを、本日のご議論を聞いて思った次第です。

頂いたご意見をどのような形で反映させていくかを岐阜市の中で議論させていただき、それを踏まえ、次回は8月25日をご予定いただいておりますがこの後のスケジュール感も含めて、委員の皆様にご説明したいと思います。

○杉山委員長

ありがとうございました。時間となりましたので、今日はこれで閉じさせていただきます。なかなかまとめるのが難しい状況かと思っておりますので、ぜひ皆様のご意見を取りまとめて、それを元にまた審議をお願いします。予定していたスケジュールでは少し難しいかもしれませんが、それも含めてご相談していただきたいと思います。

では、お返しします。

○久富企画部次長兼総合政策課長

本日は、活発なご議論をいただき誠にありがとうございました。頂いたご意見を踏まえ、次回に向けて検討を進めてまいりたいと思います。

次回の会議は8月25日（月）の10時を予定しています。正式な通知等はまた後日お送りします。ご都合により出席が難しい場合には、オンラインでのご出席、または事前に資料をお渡しして意見を提出することもご検討いただければと思います。

それでは、以上をもちまして本日の会議を終了します。お忙しい中ご出席いただきありがとうございました。